

古希に実現した富士山登頂(富士宮ルート)山スキー報告

【山城】 富士山

【日程と天気】 2019 年 5 月 25 日 天気快晴・気温御殿場の最高気温 30℃

【メンバー】 CL 菊池単独、途中から会員外の SA さん合流

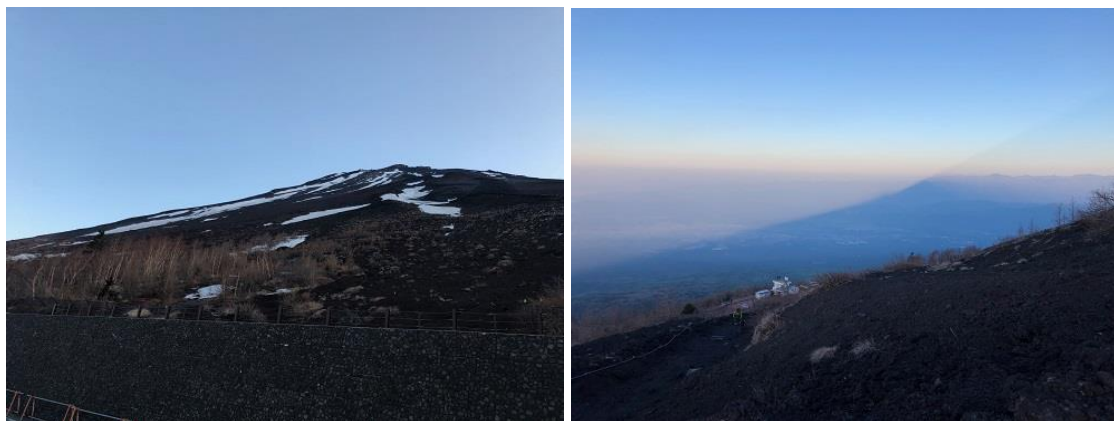
【行程】

富士宮五合目 4:45—13:00 富士山登頂(鳥居)13:25—往路を滑走—2620m まで滑走—15:30 五合目駐車場



- ・ 11 年前わが会のレジェンド、最高齢者の TR さん(当時 69 才)を富士山登頂山スキーにいざなった。小生は 68 才の一昨年、初体験者 4 名を案内し、久しぶりに登頂山スキーを実現させたが、登頂までの所要時間は 7 時間であった。昨年は残雪不足のため富士山山スキーを断念、古希になった今年こそ TR さんの記録を何とか凌駕せねばと、自らにミッションを課し、8 時間以上かけて何とか成功させることができました。富士山山スキーにかかる熱意は並々ならぬものが小生の心の中には継続されている。わが会の HP の山スキー(BC)の部屋に富士山山スキーに関する熱意(富士山に魅せられて「登頂山スキーへのこだわり」と記録を収録してあるが、愛車のナンバーを 3776 にしているほど、富士山に惚れ込んでいるのである。

- 体力低下がひしひしと実感できる近年、登頂までの所要時間がうなぎのぼりに増加しているため、スタートは4:45と早めた。5月中なのに平地は真夏並みの暑さで、この日の御殿場の最高気温は30℃ほど、35℃以上の猛暑日を記録した地域もある特異日であり、持参した水分は2.5リットルほど、食料もたっぷり持参、かなりの重荷となってしまった。いつものように富士宮五合目登山口から見上げる富士山はこんな感じで残雪量が心細い。日の出後間もないため、影富士が見えます。



この時期、例年はもう少し上の2700m位まで滑走できることが多いのですが、今年は3月4月の降雪が多かったためか2610mほどのこの地点まで滑走可能です。2900mほどの地点で下方から「ファイトファイト」と頻回に大声をあげている方がいます。自分を鼓舞しているのかなあと怪訝に思っているとなんと、今期わが会のツアーに同行しているSAさんではありませんか。今回は登頂を成功させるために単独でマイペースで行動するのが良いと考えていました。SAさんは計画が変更になり、小生を追ってすごいスピードで追いついてきました。彼は登頂後お釜の中を滑ると気合を入れていました。少し談笑しお互いの健闘を祈って、小生は後ろから焦らずゆっくり登りました。



富士山はかなり急な斜面の連続のため、アイゼン装着して雪渓を登ります。脚力のある若者はシール・クトーで最後まで登り通す強者も見かけます。3000mを少し超えたところ

で、いつものように右の雪渓に移動します。この雪渓の下は宝永火口に落ち込み。上は山頂直下まで雪が繋がっている広大な雪渓です。間もなく山頂までの全貌が見渡せます。今期は凹部にはかなり下部まで雪渓が残っていましたが、凸部は例年より雪消えが速いようです。



いよいよ最後の山小屋のあたりまで来ました。この辺は残雪が少なく広く岩が露出しており、辛うじてこの一点のみ雪が繋がって、滑走時は慎重に通過せねばならない。こんな軽装のトレランの若者が数名いました。



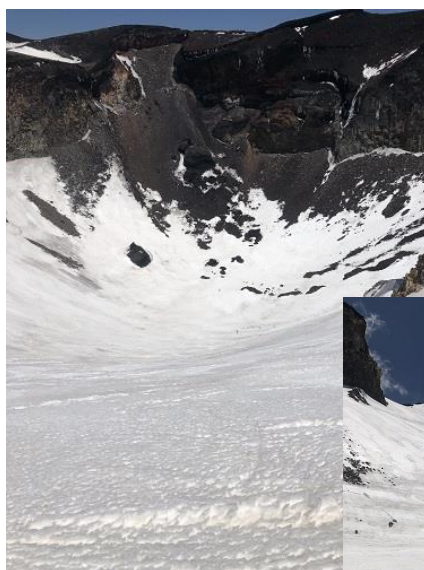
9号5勺の小屋脇で休憩後いよいよ最後の急登です。前回の2年前の登頂時、亀足組はこの地点でスキー板をデポして辛うて13時に登頂できました。今回は水分と食料を大量に持参、重荷と自分の体重も増えており、これらがあだとなり、年々衰える体力であり10~20歩進んでは止まって呼吸を整え、牛歩戦術で



山頂に向かいました。最後は雪のないジグザグの岩の登山道が始まります。この少し前から左大腿の裏が痙攣しそうな気配でした。いたわり休みながら何とか回復、雪が消えているところにスキー板とアイゼンをデポ、身軽になり、最後の岩のジグザグ登山道になりましたが、今度は右の大腿の裏が同症状、大腿に負担がかからぬようゆっくり進んだ結果、13時(スタートしてから8時間15分)に鳥居をくぐることができました。ギリギリの体力でしたね！！



- 剣が峰をバックに記念撮影をしてもらい、記念に残る古希の宝物の一枚をゲットできました。お釜を滑った格好良いシュプールが多数刻まれています。お釜の底に2〜3名スキーヤーが豆粒のように見えます。2001年から富士山での山スキーを開始、2004年5月8日単独で初めて登頂山スキーを成功させてから15年経過し、70才の記念すべき古希の年に再び単独で成功させました。富士山登頂・登頂山スキーも数えられないほどの回数でスキー仲間を何十人と山頂に案内しました。今回の長い所要時間、万全の対策を講じても最後には大腿が痙攣しそうな状況



を考えると、そろそろ登頂山スキーは卒業する時期であると自覚しました。登頂せずとも条件の良い下部の



斜面で富士山山スキーを楽しむことは続けたいと考えています。SA君はまだお釜から上がってきてないようですがそろそろ下山しますか。後日彼から送られてきた写真を披露し

ます。剣が峰に立つ SA 君登りは終始半袖の元気者です。この 35 度～40 度の急斜面をボトムまで滑り込んだのですね！！SA 君がお釜のボトムで撮影した記念に残る一枚です。2006 年、小生が 57 才の時、精鋭 4 名、5 時間 20 分で登頂し、お釜の上半分を滑走しました。元気であったあの頃の体力は益々衰えていますが、気力は十分。富士山登頂山スキーは今回限りですが、広大な富士山大斜面滑走や五合目以下の味のあるネイチャースキーなど、今後も追及して行きたいと考えている。

- ・大腿筋（ハムストリングなど）が痙攣直前のギリギリ状態で登頂、休憩時間を十分とりたかったが新歓の宴会に参加するためゆっくりはしてられない。行動食を採り、大腿をマ



ッサージ、体調を整え 13:25 下山開始した。まだ続々と登頂を目指して上がってくる方々とすれ違いながらスキーデポ地まで下った。SA 君も直後に下山してきて合流、い



よ
いよ滑走開始、スタート前の笑顔の一枚を撮影していただいた。それにしても太目ですね！！これでは登頂に 8 時間以上かかるのはうなずけます。SA 君の弱点矯正のアドバイスしながら、またお互いに撮影してもらいながら、素晴らしいザラメ滑走を堪能できた。今回担ぎ上げた板はオールラウンドのセンター 80 mm, 172cm のアトミックの tacora、ソールにウロコを刻み年に 1～2 回ネイチャースキーで使用しているが、お蔵入りしている板である。ビンディングはタルガで最も軽量のため持参した。滑り易く、切れの良い板でよく走り素晴らしい滑走感であった。悲鳴をあげていた大腿筋は何とか大丈夫である。空気が薄くハアハ

アしながら小刻みに停止し、息を整えながら滑走した。



- SA 君の最大の欠点は足首が十分前傾してない点であり、事前にメールでこの点を強調し、家でイメトレを行ってきたようだ。今回は見違えるような素晴らしいフォームとなり、スピードコントロールを的確に行えるとともに、よりアクティブな滑りになっている。この一枚、惚れ惚れしますね！！後方からのショット重心が遅れてない素晴らしいフォー



ムに矯正されています。滑走もそろそろ終盤、小生はまたハムストリングが張ってきたため、アルペン滑りでゆっくり SA 君の後を追った。SA 君はこの日は 300%の満足度、最後までスピードに乗った安定した素晴らしい滑りを見せてくれました。

富士山バンザイ！！

新歓会場の山逢の里キャンプ場には 20 時 20 分に到着、宴たけなわの中、レジェンド TR さんから祝福の握手をしていただき、天にも昇る心持でした。